

夕の祈りの集い

晩 祷



日本聖公会祈祷書（1959年版）より

晩祷序式

晩祷の前にこの序式を用いてもよい。司式者は次の聖語の一節または数節を朗読する。

ハバクク書二章二〇節 / マラキ書一章一一節 / 詩一九篇一四節 /
エゼキエル書一八章二七節 / 詩五一篇三節 / 詩五一篇九節 / 詩五一篇一七節 /
ヨエル書二章一三節 / ダニエル書九章九、一〇節 / エレミヤ記一〇章二四節 /
マタイ伝三章二節 / ルカ伝一五章一八、一九節 / 詩一四三篇二節 / ヨハネ第一書一章八、九節

司式者は次の勧告をする。かつこの中は省いてもよい。

勧 告

愛する兄弟よ、「聖書にしばしば、しるせるごとく、天の父・全能の神は罪を懺悔すべきことを勧めたもう。我ら多くの罪を犯したれば、包みかくすことなく、まことに悔やみ、謙そんなる心にてこれを言いあらわし、父の深きあわれみによりて赦しを求むべし。これはいつにてもなすべきことなり。しかれども相ともに集まりて、父の御手より受けし大いなる恵みを謝し、御名をほめ、御言葉をきき、からだと魂とに必要なものを願う時には、格別になすべきことなり。ゆえに」恵みの御座にむかい、きよき心と静かなる声をもって懺悔し奉るべし

一同ひざまずいて次の懺悔をする。

懺 悔

あわれみ深き全能の父よ、我らは迷える羊のごとく父の道を離れ、多くおのれの工夫と欲に従い、主の聖なる律法をおかし、なすべき事をなさず、なすべからず事をなし、全きところあることなし。しかれども父よ、主イエス＝キリストをもって世の人に約したまえるごとく、罪に悩める者をあわれみたまえ。とがを懺悔するものを赦したまえ。悔やめる者をかえしたまえ。あわれみふかき父よ、願わくは今よりのち神を敬い、正しきを行ない、身を修めて、御名の栄光をあらわすことを、イエス＝キリストのいさおによりて得させたまえ アーメン

司祭は立って次のように言う。

赦 罪

我らの主イエス＝キリストの父・全能の神は、罪びとの死ぬることを好まず、悪より帰りて生くることを望み、又その仕えびとに権威をあたえて、主の民に罪の赦しを告ぐることを命じたまえり。神は、まことに悔い改めて福音を信ずる者をことごとく赦したもう。願わくはあわれみ深き全能の神、なんじらの罪を赦し、恵みと力を与え、悔い改めにかのう新たなる生涯を送らしめたまわんことを。アーメン

晩 祷

一同ひざまずき、準備の黙祷の後に次の唱和を用いる。

司式者 神よ、すみやかに我らを救いたまえ

会衆 主よ、とく、きたりて我らを助けたまえ

ここで一同立つ。

司式者 父と子と聖霊に栄光あれ

会衆 始めにあり、今あり、世々限りなくあるなり アーメン

司式者 なんじら主をほめまつれ

会衆 主の御名をほめまつるべし

詩 篇

ここで、定められた詩篇を歌いまたは唱える。一篇終わるごとに栄光の頌を用いる。

第一日課

第一日課の後に次の頌を歌いまたは唱える。

この頌の前に、その日にふさわしい聖歌を用いてもよい。

聖なるおとめマリヤの頌

- 一 わが心、主をあがめ | わが霊は、わが救い主なる神を喜びまつる
- 二 そのはしための卑しきをも | 顧みたまえばなり
- 三 見よ今よりのち、よろず代の人われを幸いとせん | 全能者われに大いなることをなしたまえばなり
- 四 その御名は聖なり | そのあわれみは世々かしこみ恐るる者に臨むなり
- 五 神は御腕にて力をあらわし | 心のおもいのおごれる者をちらし
- 六 勢いある者を位よりおろし | 卑しきものを高うし
- 七 飢えたるものをよき物に飽かせ | 富める者をむなしく去らせたもう
- 八 また我らの先祖に告げたまいしごとく、アブラハムとそのすえとに対するあわれみを
| とこしえに忘れじと、しもベイスラエルを助けたまえり
父と子と聖霊に | 栄光あれ
始めにあり、今あり | 世々限りなくあるなり アーメン

第二日課

第二日課の後に次の頌を歌いまたは唱える。

シメオンの頌

- 一 主よ、今こそ御言葉にしたがって | しもべをやすらかに行かしめたもうなれ
- 二 わが目は、はや | 主の救いを見たり
- 三 これ、もろもろの民の前に | 備えたまいしもの
- 四 異邦人をてらすひかり | 御民イスラエルの栄光なり
父と子と聖霊に | 栄光あれ
始めにあり、今あり | 世々限りなくあるなり アーメン

一同使徒信經を歌いまたは唱える。

使徒信經

我は天地の造り主・全能の父なる神を信ず

我はそのひとり子、我らの主イエス＝キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ＝ピラトのとき苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみにくだり、三日目に死にし者のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて生ける人と死ねる人をさばきたまわん

我は聖霊を信ず。また聖公会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだのよみがえり、限りなき命を信ず アーメン

一同ひざまずく。以下、みたすけのための祈りまでを歌ってもよい。

司式者 主よ、あわれみたまえ

会衆 キリストよ、あわれみたまえ

司式者 主よ、あわれみたまえ

次に一同、主の祈りを唱える。

天にまします我らの父よ、願わくは御名を聖となさしめたまえ。

御国をきたらしめたまえ。御心を天におけるごとく、地にも行わしめたまえ。

我らの日用の糧を今日も与えたまえ。

我らに罪を犯すものを我ら赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。

我らを試みにあわせず、悪より救いいただいたまえ アーメン

ここで司式者は立つ。

司式者 主よ、あわれみを我らに現わしたまえ

会衆 主の救いをあたえたまえ

司式者 主よ、正しきをもって主の仕えびとを装いたまえ

会衆 主の聖徒を喜ばせたまえ

司式者 主よ、主の民を救いたまえ

会衆 主のゆずりを祝したまえ

司式者 主よ、この世を安らかに治めたまえ

会衆 地のはてまで戦いをやめしめたまえ

司式者 神よ、我らの心をきよめたまえ

会衆 我らより聖霊を取りたもうなかれ

司式者 主なんじらとともにいますことを

会衆 主なんじの霊とともにいますことを

司式者 我ら祈るべし

特 禱

ここで当日の特禱を用い、つづいて次の二つの特禱を用いる。

平安のため

もろもろの聖なる望み・良き思い・正しきわざのもとなる神よ、願わくは、しもべらに世のあたえ得ざる平安をあたえ、主の戒めに従うことを決心せしめ、また主の守りによりてあだを恐れず、おだやかに世を渡ることを得させたまえ。救い主イエス＝キリストのいさおによりてこいねがい奉る。アーメン

みたすけのため

主よ、御光もって我らの暗きを照らし、主の大いなるあわれみをもって今夜の危うき防ぎたまわんことを、御子・われらの救い主イエス＝キリストのいつくしみによりてこいねがい奉る。アーメン

ここで司式者はひざまずき、諸祈祷、嘆願、感謝を用いてもよい。

六 一般的に用うる感謝(125ページ)

一同で唱える。

全能の神・慈悲の父よ、我らと人々の豊かなる恵みをくださったもうことを感謝し奉る。主は我らを造り、我らを守り、この世の物をあたえ、ことに主イエス＝キリストにより世を贖いて量りなき愛をあらわし、恵みを受くる法を示し、のちの世の栄光の望みをいだかしめたまえり。願わくはこのもろもろの恵みに深く感じ、ただ言葉のみを用いず、おのれをささげて主に仕え、生涯きよき行ないを用いて主の栄光をあらわすことを、イエス＝キリストによりて得させたまえ。願わくは誉れと栄えかぎりなく父と子と聖霊にあらんことを。アーメン

三七 キリソストムの祈り(123ページ)

今ここを合わせて主に祈る恵みを与えたまえる全能の神よ、御名によりて両三人あつまる時は、その願いを許さんと約したまえり。願わくは我らの益をはかりて望みと願いを遂げしめ、この世においては主の道を悟り、後の世においては限りなき命に至ることを得させたまえ。アーメン

終わりに次のように言う。

願わくは主イエス＝キリストの恵み、神のいつくしみ、聖霊のまじわり、我らとともに限りなくあらんことを。
アーメン